

0歳から6歳までの子どもの健やかな育ちを見通して、常に保育を振り返りながら子どもの理解を深め保育の改善や質の向上を目的として取り組むものです。

所沢市立西新井保育園

A…できている B…ほぼできている C…努力が必要

1. 保育の理念・保育観	評価	課題や改善すべき点
○ すべての子どもについて、一人ひとりの存在とその人権を尊重している。	A	
○ 個人情報の保護に配慮し、子どもやその家族についての秘密を正当な理由なく漏らすことがないようにしている。	A	
○ 様々な特徴を持つ子どもも持たない子ども、一人ひとりのありのままの姿を受け止め、地域のすべての子どもが健やかに成長することを願って保育をしている。	A	
○ 子どもの家庭状況は多様だという考えの上で、今、その子に何が必要かを見極め、それぞれにとって適切な援助をおこなっている。	A	
○ 一人ひとりの子どもに目が行き届いていたか振り返り、保育の課題を見つけている。	B	
2. 基礎的事項		
○ 子どもが安心して自分の気持ちを伝えられるように、いつも心を開いて、信頼関係をつくる努力をしている。	A	
○ 子ども一人ひとりの背景や保護者の状況を理解し、受けとめて、安心して甘えられるように、その子の気持ちに寄り添い、支えている。	A	
○ 必要に応じて、心も体もゆったりとくつろげるための空間と時間をつくり出す努力をしている。	B	
○ 日常生活でのしぐさをよく観察して、行動や身体の異常などの早期発見に努めている。	A	
3. 保健活動・安全管理		
○ 身長・体重等の測定や医師の診断から、発育・発達の状態を把握して、それを保護者や他の職員に伝えるときにも、日常の保育に生かしている。	A	
○ 睡眠中の子どもの顔色、呼吸の状態を観察するなど、SIDS(乳幼児突然死症候群)等への予防に努めている。	A	
○ アトピー性皮膚炎・食物アレルギー等の子どもに対して、医師の指導のものに適切な対応をしている。	A	
○ 地震等の災害や火災に備え、避難訓練等に参加し、非常災害時に何をしなければならぬか理解している。	A	
○ 不審者が侵入した場合に備えて、子どもの安全を確保するための対応策を日頃から心がけ、職員間で話合っている。	A	
4. 保護者・地域社会・関係機関との連携		
○ 園での様子を伝え家庭での様子を聞かなか、保護者と共に子どもの育ちを同じ目線で考えている。	A	
○ 保護者同士が、お互いをよく知り合う機会を設けている。	B	懇談会を年に2回設けているが、保護者同士が十分な交流がもてるよう工夫していく
○ 公園などの公共の場を使用する時は、地域の方とあいさつを交わしたり、ゴミを残して帰らないよう気を配っている。	A	
5. 保育園の職務・役割分担		
○ 職員会議で必要と思う質問や意見交換をしている。	A	
○ 栄養士など保育士以外の職種の人たちが保育にかかわるとき、その人たちへ気配りや協力関係に配慮するとともに、保育士としての役割が何であるか理解している。	A	
○ 自分のクラスの教材や備品を、責任もって毎日点検・管理している。	B	整理整頓できていない部分があったので確認し、管理していく
6. 保育士としての質的向上(研修・研究活動)		
○ 保育士が自分の保育を振り返り、問題点や課題を見つけている。	A	
○ どのような子どもについても、一人ひとりの課題をみつけ、職員間で意見交換をおこなっている。	A	
○ 保育の悩みや疑問を解決するために、研修や会議で話し合いを持っている。	A	
○ 他のクラスの保育について、疑問や感想・意見をお互いの向上のために、言葉に配慮しながら素直に伝えている。	B	職員同士伝えやすい雰囲気づくりを心掛けている
7. 行事		
○ 園が従来から続けてきた「行事」について、その意味について十分に考えてから、保育の中に組み込んでいる。	A	
○ 「行事」が子どもの生活や遊びから発展していくように、日常の保育の積み重ねの結果となるよう心がけている。	A	
8. 担当業務		
1) 0歳児保育		
○ 一人ひとりの子どもの出生時の状況、その後の発育・発達など、生育歴を細かに把握するとともに、保護者の状況などの背景も理解している。	A	
○ 哺乳瓶の消毒、調乳、沐浴の仕方など基本的な事務や、子ども一人ひとりの健康状態などを、随時職員相互で確認している。	A	
○ 授乳について、その子が欲しがるときにやさしく抱いて微笑みかけ、ゆったりと飲ませている。	A	
○ 離乳食は、家庭と連携をとりながら、一人ひとりの育ち具合やその日の体調に合うよう工夫をおこなっている。	A	
○ おむつ交換は「きもちいいね」などとやさしく声をかけたり、マッサージしたりして、排便の回数、便性を把握して臀部の清拭している。	A	
○ 赤ちゃんの目の動き、泣き声、しぐさ、片言をメッセージとして受けとめ、ほほえみ、要求に応じる言葉をやさしく返している。	A	
○ 寝返りができない乳児を寝かせる場合には、仰向けに寝かせるようにするとともに、睡眠中の姿勢、毛布・バスタオル、呼吸等の確認をしている。	A	

2) 3歳未満児保育(1・2歳児保育)

○ 大勢の子どもを保育するときでも、大人を独占したがるその子の気持ちも十分に受け止め、子どもの背景に配慮しながら、個別対応の努力や工夫をおこなっている。	A	
○ 探索活動が十分行えるよう、安全にはよく気を配りつつ、環境を整えたうえで、子どもが要求する行動を容認している。	A	
○ 着替えや食事などの時には、その子に応じた手助けやことばかけをしながら、自分からしようとする気持ちを大切にしている。	A	
○ 子どもの好奇心や興味をもつような教材や素材、場を用意する配慮をしている。	A	
○ 散歩の時、保育者も一緒に楽しみながら、植物や虫などを見つけたりして、子どもと興味・関心をもつことを大切にしている。	A	
○ 子どもと会話をするとき、その子の目線に合わせて話をゆっくり聞いて、子どもの話したい気持ちや伝わった喜びを共感している。	A	

3) 3歳以上児保育

ア. 健康

○ 「食育」の考え方を大切に、食事を「楽しく・おいしく」味わえるように、テーブルの配置なども工夫している。	A	
○ 天候や活動の内容に応じて、衣服の着脱、調節を子ども自身が考えられるように適宜言葉をかけている。	A	
○ トイレに行くことをせかしたり、強制したりせず、一人ひとりの排泄の欲求に合わせるようにしている。	A	
○ 子どもがいろいろな楽しさを味わうために、散歩など戸外に出かける機会を積極的に取り入れている。	A	

イ. 人間関係

○ 先生や友達が好きという気持ちを味わうために、子どもが充実できる活動や場を日頃から用意している。	A	
○ 子どもが嬉しい時や悲しい時、また困ったり戸惑ったりした時に、それを伝えたい存在となっている。	A	
○ 遊びの中で子どもたちが試行錯誤しながらつくっていくルールを、大切に見守るように心がけている。	A	
○ 子どもたちのけんかやぶつかり合いを、友だちを知る機会や、社会性が育つ過程として受け止め、その育ちを見守っている。	A	
○ 一人ひとりの興味や発達に応じた取り組みをして、子どもたちが一緒に関わりあう喜びを味わう場や機会を用意している。	A	

ウ. 環境

○ 庭や散歩で拾ってきた木の葉・木の実など色々な物を比べたり調べたりして、自然の不思議さや面白さを子どもたちと共感するとともに、物の性質や数・量などに対する興味を育てている。	A	
○ 子どもが自由に取り出して遊べるよう、遊具・用具などの構成を整え、その量や補充について工夫している。	B	

エ. 言葉

○ 紙芝居や絵本の読み聞かせて、子どもが感動したり想像力を膨らませるように、自身もその内容を楽しんでいる。	A	
○ 子どもの目をやさしく見つめながら気持ちを合わせ、その子の言葉だけではなく、目の動き、顔の表情、体全体の色づきにも注意を払っている。	A	
○ 子どもに言い聞かせるときには、問い詰めたり、押し付けたりせず、子ども自ら考えるきっかけになるようなわかりやすい言葉づかいをしている。	A	

オ. 表現

○ 見たこと、感じたものに対して、言葉、絵、造形、からだ、音などその子が最も好きな、得意とする方法で表現することを大事にしている。	A	
---	---	--

4) 特別な配慮や支援を必要とする子ども(混合児)の保育

○ 保育園は、様々な特徴をもつ子どもそつでない子も「共生」「共有」の観点から、当たり前のこととして保育するという考え方に共感している。	A	
○ 就学に向けて相談する混合児の保護者に対して、保護者が自分で方向を決めていけるように相談に応じたり、情報提供をしている。	A	
○ 様々な特徴を持つ子の保育をより豊かなものにするために、子どもたちにふさわしい環境を整えるなどの努力をしている。	A	

5) 延長保育

○ 次々にお迎えがくるなかで、子どもの不安なつぶやきに対して、その子の気持ちを受け止めて、安定した気持ちで待つことができるよう適切な対応をしている。	A	
○ 一時保育や延長保育の子ども保護者に、緊急の連絡が取れるようにな手だてを確認をしている。	A	

6) 一時保育

○ 一時保育の申し入れには、保護者の事情等や子どもの背景を十分に考慮しつつ、受け入れをおこなっている。	A	
○ 慣れない所に一時的に預けられる子どもの不安な気持ちを考え、予定している日案を変更するなど柔軟な姿勢をもっている。	A	

7) 地域の子育て支援

○ 保育園には子育て相談などの「地域の子育て支援」という役割を持つことを知り、職員全体で受け止めている。	A	
○ 子育て相談を実施する際に連携すべき機関等(保健センター・児童相談所・福祉事務所・医療機関等)の機能について知っている。	B	職員全体に周知できるよう会議などで共有していく

※ 0歳児保育及び一時保育を実施していない園もあります